

陽だまり通信



みなさん、こんにちは。「あまの訪問看護ステーション」の管理者をさせていただく、左利です。当事業所は、2015年2月1日から開始となり、開設に至るまでの期間は、約半年間を要しました。その間、多くの関係者の方に協力をして頂き、誠に感謝しております。

さて、開設当初は看護師3人、24時間体制でスタートとなりました。多少無茶かもしれませんが、「タフネス」を売りにしていきたいと思っております。また、4月1日からは、看護師1名、作業療法士1名、理学療法士1名が加わり、合計6人体制となります。

当事業所のスローガンは「あなたの人生(みち)をささえたい」です。スタッフみんなで協力し合い、岩国の市民の皆様のために少しでも役に立つよう頑張っていきます。



あまの訪問看護ステーション

〒741-0071 岩国市牛野谷町3丁目49番53号

TEL. (0827) 32-6265

FAX. (0827) 32-6267

【営業日】月曜日～土曜日(祝日もやります)

【営業しない日】日曜日、盆(8/14、15)、

年末年始(12/31～1/3)

【営業時間】9:00～18:00 ※緊急時は24時間対応

『あまの訪問看護ステーション』開設!!

岩国市に

CONTENTS

特集 「改善事例発表会」開催

施設情報/みなさまの声

平成26年度 外来・入院患者アンケート 集計

介護食・嚥下食体験会を実施しました!!

<http://www.amano-reha.com>

特集

「改善事例発表会」開催

法人教育委員会

臨床工学課業務の取り組みについて

アマノリハビリテーション病院
臨床工学課
○竹内 邦夫

【目的】

昨年より臨床工学課が設立されME機器を効率よく運用する目的で、機器の中央管理を含めた管理、医療消耗品の削減及び心臓リハビリテーション開設に向けての取り組みを行ってきたので報告する。

【方法】

ME機器の管理及び中央管理はできるだけ投資を少なく現実にあった方法で行う事にし、人工呼吸器患者の定期点検、回路交換、睡眠時無呼吸患者の非侵襲的陽圧換気療法(BIPAP)導入等のサポートを行うようにした。心臓リハビリテーションでは、機器の選定ではメーカーの比較表を作成し選定の補助等を行い、



発表者

情報共有カード運用への取り組み

アマノリハビリテーション病院
2階病棟棟東
○平田 恵子・村上 美香・大黒 春香
中丸 葉子・梅田真由美

【はじめに】

病棟が東西に分かれてお互いの患者情報が把握し辛い状況であり、サポートし合うことが困難である。2階病棟西で活用している情報共有のためのツールを東西で使用することで、効果的な情報共有ができるかと考え実施した。

【方法】

- 対象：2階病棟東へ入院中の患者(50名)(倫理的側面：説明し同意を得る。)
- 期間：9月～12月
- 方法
 - ①職員へFIMについての勉強会を行う
 - ②患者一人ひとりに情報共有カードを作成し、評価を行う
 - ③1週間ごとに、またはADLの変化があるときカンファレンス、見直しを行う
 - ④1月に職員(20名)へアンケートを行う

【結果と考察】

アンケート調査の中で「徹底できていない、判りにくい、FIMを活用できていないのでは」という意見が半数近くあった。「FIMは患者の自立度を上げていく適切な指標だと思われるか」



発表者



発表者

導入に向けて心電図モニター研修会を合計4回行った。また、医療消耗品の削減においては、心電図モニター心電図電極の変更を行う事により経費削減を目指した。

【結果・考察】

輸液ポンプ、シリンジポンプ、特殊ナーズコールは中央管理することにより定期点検などが行う事ができた。心電図モニターの点検では、従来業者に委託でかかっていた費用が削減でき、心電図消耗品では、電極の変更、使用方法の変更をすることにより一定の削減効果があった。心臓リハビリテーションでは、機器の選定も病棟と統一することができ消耗品の統一も可能になった。また、週3回の外来集団リハビリを安全に行う事ができた。運動負荷試験測定装置(CPX)の導入により運動負荷を決定する基準ができるようになった。CPX装置導入で基礎代謝も測定可能になり栄養評価などが行えるようになった。透

析患者の受け入れも可能となり透析中にリハビリを行い有効なリハビリが可能となった。また、人工呼吸器装着患者など定期点検、回路交換も行うようにした。睡眠時無呼吸患者のBIPAP導入もスムーズに行えるようになった。今後は下肢深部静脈血栓も行う、血栓予防などを行う予定である。



イベントレビュー取り入れて職員意識調査から分かったこと

アマノリハビリテーション病院
3階病棟西
○三宅 将裕・磯辺 浩子・中本キヌエ
上宮 章子・西畑 啓子

【はじめに】

医療業務の中で、ヒヤットとする場面やインシデント・アクシデントが発生した場合、全てにおいて報告書を出さず、報告書は当事者だけの話を聞いて原因、対策案を考えたので、「忙し具体的」「思い込み」などの結果で終わりがちな対策が取れなかった。今回、イベントレビューを取り入れる事で事実確認を可視化し、具体的



発表者



発表者

対策案を立てる事が出来た。職員の事象に対する理解度・意識変化について調査を行ったので以下に報告する。

【方法】

- 期間：平成26年5月～11月
- 対象：病棟看護師・介護士(15人)
- 方法
 - ①毎月1回、事故発生までの経過を明確にするために、時系列事象関連シートを記載。
 - ②ヒヤリハット・インシデント・アクシデント報告書をファイルに綴じ、スタッフ全員で共有。
 - ③12月に職員全員を対象にアンケート実施。

【結果】

- ①理解出来た3人・何となく理解出来た11人・ほとんど理解出来てない・理解出来てない0人・未回答1人
- ②変化があった12人・一時的に変化があった1人・変化なし1人・未回答1人



発表者

【考察】

職員全員で分析し様々な視点から意見が出ることで色々な考え方に気付かされた。アンケート内に「報告書だけでは漠然と事故の内容だけが書かれ不明瞭だったが、イベントレビュー導入で、全ての人の行動と場所の状況が把握でき、事実を正しく理解できた」とあった。関係者の行動だけではなく環境的な要因も拾い出しやすいので、時系列に要因を抽出することで情報の整理ができ、具体的な対策の立案につながった。その一方で「上げる」「公開処刑みたいで怖かった」という意見があった。これは当事者をカンファレンスに同席させ、その事実確認をしたためだと思う。事実確認はあくまで再発防止の為にあり、当事者に対しては配慮が必要であった。インタビューの育成と手順の見直し、業務改善などにつながることでその成果を理解してもらう事が今後の課題である。



発表者

について「はい」が12人、「いいえ」が4人、「どちらでもない」が3人であった。FIMの内容が細かいため理解し辛くカードを見てもその指標がどのレベルのことなのか判断に困り、確認しながら行わなければならなかった。FIMの理解も含めて今後も継続し、退院支援に活かしていきたい。

【はじめに】

発達支援教室おひさまは、「からだこころ」の発達に何らかの心配のある子どもの発達を支援する療育で、子どもの年齢や発達のレベルに合わせてクラス分けをしている。今回、その中の1教室で、月2回プール療育の取り組みを開始した。水は浮力、粘性抵抗、水圧、水温などの特性を併せ持ち、陸上では得られない多様な身体機能への効果があると言われている。取り組みでは、水という特殊な環境の中で、親子で触れ合いながらその効果を感じてもらおうことを目的とした。

【現状と課題】

アマノリハビリテーション病院
リハビリテーション部 発達外来課
○理学療法士 吉岡 啓子

【実施状況】

●実施日時：2014年9月17日
～開始
●実施場所：25mプールのコース
●対象者：2歳～4歳の運動発達に遅れがある幼児、肢体不自由児の親子
●体制：保育士2～3名、看護師1名、理学療法士1名(中級障がい者スポーツ指導員)

【現状と課題】

これまでに9回実施し、延33名の参加があった。保護者付き添いで入水し、水慣れから開始。必要性に応じて、利用児の能力・反応に合わせて浮き具を選定し使用した。基本的に、理学療法士の指導と保育士のサポートにより、保護者が利用児を介助し、姿勢変換や運動を行っている。4か月が経過し、陸上では行うことができない姿勢変換や、四肢の動きを促すことで、利用児の運動機能の変化がみられている。アンケートを行った結果、参加したことのある保護者全員から「参加し



発表者

て良かった」との回答あり、7割を超える保護者から「参加後、変化を感じている」との回答が得られた。発達支援教室おひさま利用児は、何らかの疾患を有しており、保護者は健康児のような運動発達を感じる事が難しい。その中で、4か月という期間で、保護者が利用児の運動発達を感じることができたことは、親子教室の目標を達成できたのではないかと考える。

今回の結果と水中での運動が運動機能の向上に効果をもたらすことを踏まえ、今後は対象者を広げていきたいと考える。また、集団での療育のみならず個別での水中運動療法も視野に入れた取り組みを検討していきたい。そして、実施に応じて他スタッフの育成も検討課題である。

ご利用者さま本位の充実した個別対応の実現をめざして9年間の取り組み

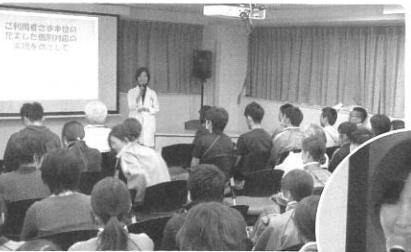
あまのクリニック 栄養課
○野中 里江

食事に対する要望は千差万別で、完全な個別対応を実現する事は、非常に困難である。今回は、利用者様に真に喜んでいただける食事サービスの取り組みについて発表する。



発表者

●利用者様の食事情報を栄養部門、介護部門とで共有したことによって、食事提供の間違いがなくなった。●食事内容が整理され理解しやすくなったことで、調理作業がスムーズになった。●疾病などの事情だけでなく、個々の嗜好にも対応できたことで、利用者様に喜んでいただけるようになり、喫食率も上がった。



発表者

特集 「改善事例発表会」開催

アマノ式・文房具ワークサンプル(作業能力検査)の紹介
(Amano Worksample of Stationery: AWS)

社会参加支援課(社参課)
○松田 啓一・上田 翔・森山 史恵
寺脇 希・土井隆健太



【はじめに】
「ワークサンプル」とは「作業標準法」とも呼ばれる作業能力評価法の一種である。様々な職業で必要とされる基本的作業を「サンプル」として抽出し、その模範的作業を検査として実施するものである。
ワークサンプルは心理検査等と違い既製品が少ないため、この度、当院独自に開発したのでこれを紹介する。本検査は机上文房具を中心としたワークサンプルである。



【結果】
①様々な文房具を使う事務的作業を網羅的に、しかも短時間で被験者に体験してもらえようになった。
②検査はいずれもごく日常的作業である上に、「速さ」と「正確さ」について一応の目安があるため、特に「活動制限」(WHO・ICFモデル)の評価を被験者と検査者が共有しやすくなったと考えられる。

【考察】
被験者に出来る事、出来ない事、代償手段の有無等について考えてもらうきっかけづくりには有効だと思われた。今後は臨床の場でさらに使いやすいものにしていきたい。

訪問看護ステーションでの療法師と看護師の連携

ハートフルステーションあまの
○池田 洋・赤木 舞・大原あゆ美
板倉 香・大津 恭孝

【目的】
事業所内で看護師から療法師に対する、介助方法やリハビリの相談があった

た際、利用者不在では提案や伝達が行い難く、同行訪問の機会が欲しいと感じていた。同行訪問は、ほとんどの場合でどちらか訪問は、ほとんど定めて、同行の時間調整も難しいため、情報交換の多くは事業所内で行っている。近隣の事業所へアンケートを実施したところ、他事業所の全てで同行訪問が実施され、多くの従事者が経験していた。

この結果から、当ステーションが提供するリハビリの質の向上には、①同行訪問の必要性を検討し選択的に行うこと、②相互の役割を理解するため専門性を学ぶことが必要と考え、具体的な方法を探った。

【結果】

●事例①
看護師だけが訪問する利用者について「引きこもり状態による、身体・認知機能の低下がある」との相談があった。療法師は同行訪問し、利用者の機能を評価し、看護師の行う訓練を立案した。その後、看護師の行った訓練によって活動の意欲が向上し、さらなる訓練の希望から訪問リハビリが開始となった。

●事例②

平成26年4月から、全ての利用者にて褥創評価と予防・対策計画が必須となった。療法師は技術の習得を求め、褥創の評価と処置の研修会に参加した。その後、ある利用者にて「発赤あり」との情報があり、担当療法師が訪問時に真皮までの褥瘡を発見した。発見後、看護師の訪問が開始



となり、短期間で治癒に繋がった。同行訪問を恒常的に行うことは難しい。しかし通常は単独で訪問していても、必要に応じて時間調整などの工夫をして同行訪問を行うことで、より確かなサービスを提供することが可能である。また、療法師が看護師の専門性を学び、専門外の状態変化に気付く目を養ったことが、看護師の訪問に繋がった。療法師と看護師が相互の役割を理解し、選択的に同行訪問を組み合わせることで、効果的なサービスの提供が可能であると考えられる。

認知症の周辺症状(BPSD)減少を目指して

「ファイバーを用いたの試み」

介護付有料老人ホームカーサミア
○磯部 裕子・三田 千里・望月 文字
谷 まゆみ・吉村真奈美・清水みどり

【はじめに】
A様は入居されて以来、離脱や弄便、行事参加時の不機嫌な態度や暴言などのBPSDがみられた。認知症ケア委員会では、排泄、水分摂取、運動が認知症の改善につながるという情報をもとに取り組みを開始した。BPSDを減らし、カーサミアで穏やかに過ごしていただく事を目的として取り組んだ事例を発表する。

【倫理的配慮】
本事例を発表するにあたり家族の了承を得て、個人情報保護に則り仮名とする。

【期間】
平成26年4月1日～平成26年10月

31日(7か月間)
【症例紹介】
●A様：80歳前後/入居者様
●現病歴：アルツハイマー型認知症 ADL 声掛け・見守り
【方法】
①ファイバー入りのお茶を毎日提供 1000mlのお茶+ファイバー15g
②運動の実施(施設内の階段昇降 1F～3Fを毎日1回以上)
【結果】
実施前には作業を促しても椅子に座る事さえ難しかったが、実施後、促せば会話をしながら塗り絵や折り紙など取り組むことが出来るようになった。音楽会などの行事への参加時にも表情が優しくなり笑顔も多く見られるようになった。時折帰宅願望はあるが、離脱には至っていない。また、排便の周期が把握でき、座薬などでコントロールできているため弄便などの不潔行為が無くなった。

【考察】
認知症の症状を改善することは難しいが、BPSDを減らして穏やかに生活していただく事は本人、ご家族にとっても大切なことであると考えた。今回の取り組みによって、笑顔で過ごしていただける時間が増えたことが職員喜びにも繋がった。今後も継続して取り組んでいき、カーサミアのテーマである「居心地のよい場所づくり」を目指していきたいと思う。



施設情報

医療法人ハートフルのさまざまな施設で行われた催しをご紹介します。

ハートフルあまの

調理活動を行いました

地域活動支援センターハートフルあまのでは、毎年1月と2月に1回ずつ調理活動を行っています。まず、利用者様みんなで話し合いをしてメニューを決めます。食べたい物を言ってもらったり、食べ物の写真を並べて指を指してもらったり、目で追ってもらったりとそれぞれの方法でたくさん意見が出ました。意見が出ると今度は多数決で絞っていきます。たくさんメニューが出た中でなかなか1つに決めるのは難しいので、1人3回手を挙げてもらい1番票を集めた物が決定となります。



この度決定したのは、やはり人気のハンバーグ、海藻サラダ、コンソープでした。ハンバーグ班とサラダ、スープ班に分かれていざ調理!!ハンバーグを力いっぱいこねたり、焦げないよう根気よく

ゆづりあまの

創作活動

スープを混ぜたり、きれいに盛り付けたりとみんなとても頑張りました。自分で作った料理は特別美味しくみないもより食べる量も多くなっていました。

ゆうゆうあまのでは、月ごとの創作活動を用意しています。干支の人形、お花、ストラップ等様々な作品を考え材料と作り方を準備します。同じ材料でも、仕上げ方で様々な作品が出来上がります。これからも出来上がった時の笑顔を楽しみにしながら、利用者様の趣味が活かせるように取り組んで行きたいと思っております。



望海の里

お寿司屋さん開店

望海の里では、「にぎり寿司」の昼食メニューを提供しました。スタッフが入居者さんから注文を聞き、入居者さんの目の前でしやりと寿司ネタをにぎって、まるでお寿司屋さんで食べているような雰囲気を感じていただくこ



カーサミア

雛祭りのレクを行いました

3月3日、桃の節句当日に、カーサミア職員がお内裏様・お雛様にふんして寸劇を行い、入居者様にも参加して頂き、楽しいひと時を過ごしました。その内容は……

お内裏様・お雛様が馬車に乗って出掛けた途中になんと！その馬車が事故に!!その修理費を賄うために、入居者様「団」となって、「お金釣りゲーム」をしてお金を集め、無事修理も出来、めでたしめでたし!というものでした。当日は昼食とおやつも雛祭りバージョンで、笑顔いっぱい心の温まる一日でした。



みなさまの声

①食事担当の皆様へお礼。つまり立ちの私が、杖なしで歩けるようになりました。いろんな皆様のお陰です。この間おいしい食事を提供してくださった方々に特に御礼申し上げます。私は妻を亡くし一人暮らしです。退院後の食事のみじめさは今からわかっていきます。4ヶ月間すばらしい食事を頂きました事に對し本当に厚く厚く御礼申し上げます。お陰様で体力もうんとつきました。ごちそう様でした。

もったいない程のお言葉、ありがとうございます。病院の食事を喜んでいただき大変うれしく思います。体力もついたとのことで、退院後もお体を大切にしてください。

②病室のトイレにもウォシュレットを付けるべきだ。③病室のトイレの換気ファンがトイレから出た後も2分位回るので、夜間使用すると他の人に迷惑になるので病室の外にあるトイレを利用せざるをえない。④病室の外にあるトイレは

左右片側には手すりが付いているが、立ち座りが難しい患者にはもう一方にも何か支えが必要だと思つた。④テレビの使用料は見た分だけ課金される従量制にすべきだ。⑤入院期間中に自らが読みたい新聞を購読できるようにサービスがあればいいと思つた。

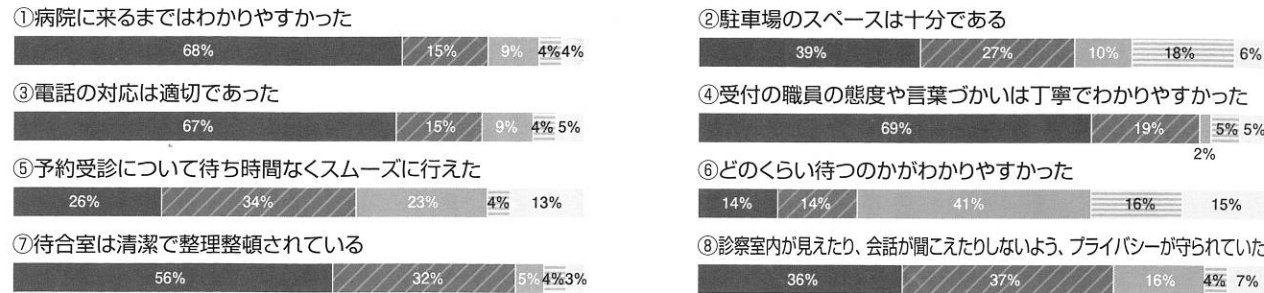
①ウォシュレットについては感染を防ぐためにもノズル等の細部まで清潔に保つ必要がある、現在の清掃ではすぐには対応できない状況にあります。今後の課題とさせていただきます。②設備上、換気ファンの音をこれ以上抑えることは困難な状況です。ご了承ください。③現在も身体の状態に応じた部屋配置等をさせていただいておりますが、構造上、即時に手すりを取り付けるのは困難な状況です。今後の課題とさせていただきます。④以前のテレビカード方式から、現在の方式に変更させていただいております。⑤売店等での新聞販売は致しておりませんが、個人で新聞を購読いただくことは可能です。スタッフにお申し付けください。



平成26年度 外来患者アンケート 集計

アンケート実施日 平成26年10月14日～10月27日 回収数 58名 凡例 ■ 思う ■ やや思う ■ どちらでもない ■ あまり思わない ■ 思わない

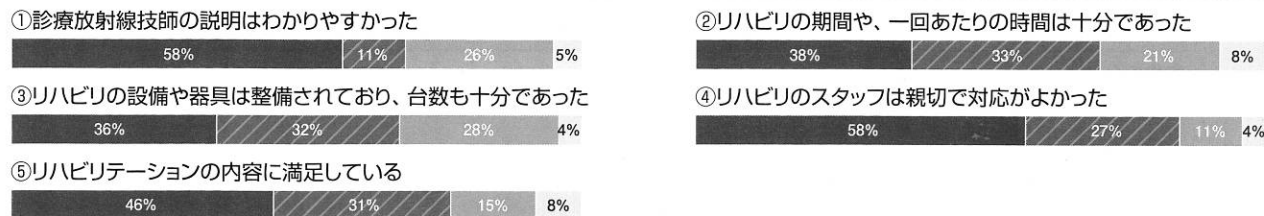
診療前について



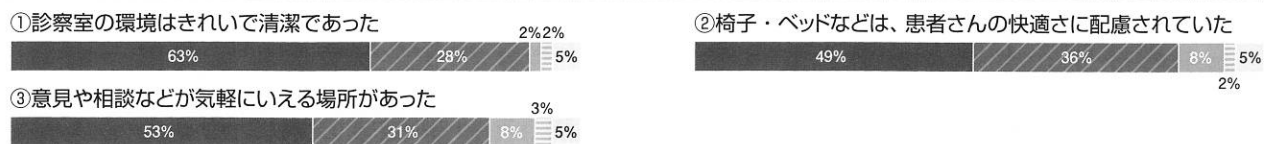
診療中の職員について



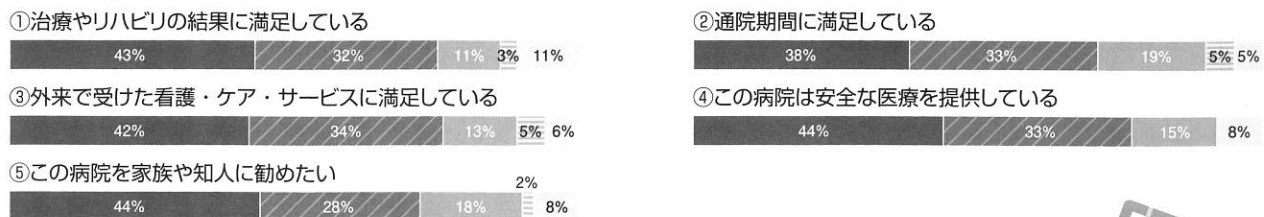
検査・リハビリテーション (該当する方のみお答えください)



院内の環境



病院についての総合的な評価をお願いします



まとめ

- ①アンケート方法、形式は、昨年度と同様のもので実施した。
- ②回収数が58名であり、昨年度の約半分であった。(昨年度の回収数122名)
- ③「やや思う」の回答が、昨年度よりやや増加している。
- ④昨年度と大きな変化はみられないが、「思う・やや思う」の категорияは、+3%であり、「満足」の回答が増加した。



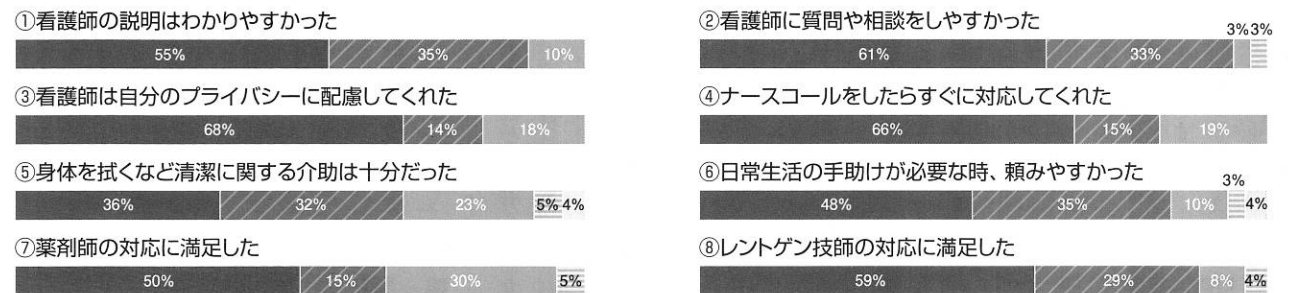
平成26年度 入院患者アンケート 集計

アンケート実施日 平成26年10月17日～11月16日 回収数 30名 凡例 ■ 思う ■ やや思う ■ どちらでもない ■ あまり思わない ■ 思わない

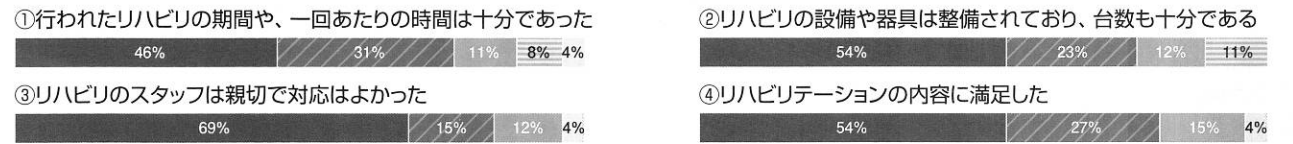
入院時



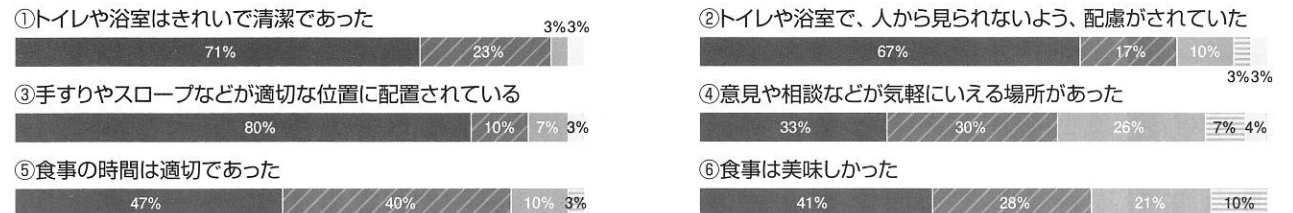
入院中の心療



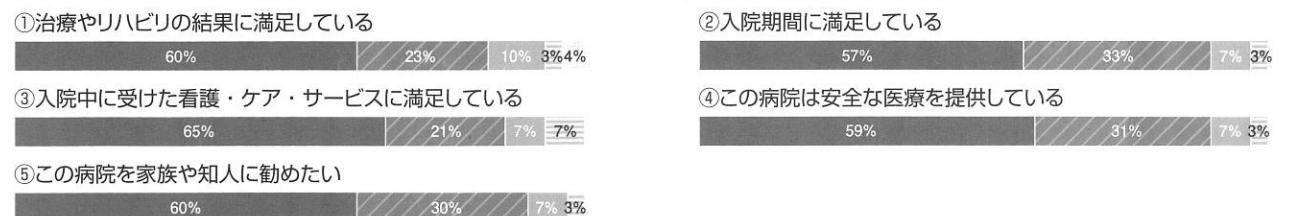
入院中のリハビリテーション (該当する方のみお答えください)



入院中の環境



病院についての総合的な評価をお願いします



まとめ

- ①アンケート方法、形式は、昨年度と同様のもので実施した。
- ②回収数が30名であり、昨年度と同様の数であった。(昨年度28名)
- ③無回答はなかった。
- ④「どちらでもない」「やや思う」の回答が、昨年度より多くなった。
- ⑤④の結果より、昨年度より、「満足」の回答が少なくなった傾向がみられる。
- ⑥環境や食事の味については、昨年度より「満足した」回答が多かった。



介護食・嚥下食体験会を実施しました!!



ハートフルアマン栄養部

ハートフルアマン栄養部6人で企画した初の試みである「介護食・嚥下食体験会」を3月14日アマンリハビリテーション病院ロビーにて実施しました。

「食の視点から医療のサポートを目指す」ことを目的とし、入院・外来患者様とそのご家族、及び地域の皆様を対象に行いました。体験会では、

- ①介護食市販品の展示
- ②1%・2%・3%と濃度の違うところみ茶の試食
- ③嚥下食には不向きとされている「蓮根」の柔らか煮の試食
- ④介護食市販品7品目の試食と4つのブースを用意し、日頃の栄養や食事の不安、疑問にお答えし、「食」を通して治療やリハビリのサポートが出来ればと考えました。

当日は事前に準備していたポスター・チラシの配布等、他部署のスタッフにも協力していただいたおかげで、30名の参加をいただきました。

アンケート結果より特に試食コーナーが良かったという意見を多くいただき、実際に口にする事で理解できると実感されていきました。「食」の大切さを一緒に考えることが出来たことが大きな収穫でした。

今後もこの会を続けていき患者様及び地域の皆様が必要とされる「食」の情報を提供したいと思っています。

最後になりましたが、食事の事で困っておられることなどありましたら、お気軽に各施設の管理栄養士にご相談ください。



- | | | | |
|---------------------|---------------------|------------------|------------|
| 天野 純子…内科・リハビリテーション科 | 山根 浩介…内科・放射線科 | 澤 衣里子…リハビリテーション科 | 柏木紀代子…心療内科 |
| 川上 恭司…循環器科 | 木村 浩彰…リハビリテーション科 | 松下 宏子…内科・循環器科 | 河村理英子…小児科 |
| 福田 裕恭…内科・心療内科 | 西山奈緒子…内科・リハビリテーション科 | 奥田 由香…皮膚科 | |
| 中島 康…内科・循環器科 | 三上 幸夫…リハビリテーション科 | 榎津 優…心療内科 | |

アマンリハビリテーション病院

2015年4月現在

診療		月	火	水	木	金	土
午前 9時 ～12時	内科	中島 康 内科・循環器科	天野 純子 内科・リハビリ	山根 浩介 内科・放射線科	松下 宏子 内科・循環器科	山根 浩介 内科・放射線科	川上 恭司 循環器科
	心療内科・神経科	—	—	—	—	柏木 紀代子 心療内科	—
午後		休診					

あまのクリニック

診療		月	火	水	木	金	土
午前 9時 ～13時	内科	天野 純子 内科・リハビリ	山根 浩介 内科・放射線科	—	—	—	—
	心療内科・神経科	榎津 優 心療内科	福田 裕恭 内科・心療内科	—	福田 裕恭 内科・心療内科	福田 裕恭 内科・心療内科	福田 裕恭 内科・心療内科
午後 2時 ～5時	内科	—	中島 康 内科・循環器科	—	—	—	—
	心療内科・神経科	福田 裕恭 内科・心療内科	—	—	福田 裕恭 内科・心療内科	—	福田 裕恭 内科・心療内科

*急患はこの限りではありません。お気軽にお問い合わせのうえ、受診してください。 *都合により、外来担当医が変更になる場合もございます。ご了承ください。



医療法人ハートフルは、みなさまへのよりよい情報提供に努めています。

医療法人 ハートフル <http://www.amano-reha.com>

アマンリハビリテーション病院

廿日市市陽光台5-9 TEL.0829-37-0800

診療科目 内科・リハビリテーション科・神経科・心療内科・循環器科・皮膚科

診療時間 午前9時～12時

休診日 日曜・祝日

あまのクリニック

廿日市市串戸5-1-37 TEL.0829-31-5151

診療科目 内科・循環器科・心療内科・リハビリテーション科

診療時間 午前9時～13時(受付は12時まで) 午後2時～5時

休診日 水曜・金曜(午後)・日曜・祝日

通所リハビリテーション ■ 重度認知症患者者デイケア

■ 高齢者デイサービスセンター ゆうゆうあまの

廿日市市新宮1丁目13-1
廿日市市総合健康福祉センター あいプラザ内3F
TEL.0829-20-1620
電話対応可能時間 月曜～土曜可能
午前8時30分～午後5時30分

■ 広島西障がい者就業・生活支援センター もみじ

廿日市市串戸5-1-37 あまのクリニック内5F
TEL.0829-34-4717 FAX.0829-34-4718
電話対応可能時間 月曜～金曜
午前9時30分～午後6時

■ 相談支援事業所 あおそら

廿日市市串戸5-1-37 あまのクリニック内5F
TEL.0829-34-4710
電話対応可能時間 月曜～金曜
午前8時30分～午後5時30分

■ 地域活動支援センター ハートフルあまの

廿日市市新宮1丁目13-1
廿日市市総合健康福祉センター あいプラザ内3F
TEL.0827-32-6265
電話対応可能時間 月曜～金曜
午前8時30分～午後5時30分

■ あまの訪問看護ステーション

岩国市牛野谷町3-49-53
TEL.0827-32-6265
電話対応可能時間 月曜日～土曜日、祝日
午前9時～午後6時 ※緊急時は24時間対応

■ 訪問看護ステーションハートフルステーション あまの

廿日市市串戸5-1-37 TEL.0829-31-5212
電話対応可能時間 月曜～土曜 午前8時30分～午後5時30分

■ 介護付有料老人ホーム 望海の里

廿日市市宮島口東2-13-15 TEL.0829-56-4580

■ 介護付有料老人ホーム カーサ ミーア

廿日市市陽光台3-1-3 TEL.0829-37-1133

■ 発達支援教室おひさま

廿日市市陽光台3-1-3 TEL.0829-37-1166
電話対応可能時間 日・祝日・水曜日除く 午前8時30分～午後6時

■ アマン居宅介護支援事業所

廿日市市串戸5-1-37 TEL.0829-31-5213
電話対応可能時間 月曜～土曜 午前8時30分～午後5時30分